

工務店の家づくり

# 木村工務店

## 顔が見える家づくり

家を建てようと思った時、選択肢は大きく分けて3つあります。ハウスメーカーで建てること、建築家に依頼すること、そして工務店で建てること。

それぞれに家づくりの形がありますが、実際に「家を建てている」のは工務店だけです。ハウスメーカーの場合も、建築家に依頼した場合も、下請け会社が施工します。「家を建てる、施工する」という視点で見ると、工務店だけが施工を請負っています。

工務店以外は家を建てていない。そう言うと、少し言い過ぎでしょうか。でも、唯一家を建てている存在としての工務店。そう考えると、工務店というものに少し興味を覚えます。工務店の家づくりとは、そもそも工務店とは、「木村工務店」を取材することで、それを探ってみたいと考えています。



## 木村工務店が建てた家 毎回違うものを 建てること

木村工務店が実際に建てた家を見ると、どれも性格の異なる建物となっています。和の趣を持つ工邸、シャープな外觀のM邸、そして白い壁が目惹くN邸。ここで紹介し切れない他の家もまた、それぞれの個性を持っています。工務店の中にはモデルハウスを持つところもありますが、その工務店の家づくりの象徴ともいえるモデルハウス。そこには自分たちの家づくりへの自信と主張があります。以前、木村工務店の木村社長に、なぜモデルハウスをつくらないのか？と訊いたことがあります。その時、その理由をごく簡潔に「毎回違うものを建てるから」と答えてくれました。

確かに、木村工務店は毎回違うものを建てています。デザインというより、ニュアンスといったほうがしっくりと伝わるかもしれません。違う工務店が建てれば、全く違った建物になるのは分かります。でも、同じ施工会社が、同じような仕入先から材料を手に入れてつくるのに、なぜ毎回違ってくるのか。

## 想いを積み重ねていく 家づくり

それを紐解くカギは、木村工務店の家づくりにあると考えます。木村工務店の建築士、田中さんに木村工務店の設計・デザインというものについて訊いた時、「工務店ならではの設計」を目指していると話してくれました。工務店ならではの設計。それについて詳しく尋ねると、「施主の想いを反映させる設計。それを叶えるために、「施工前に、自分たちが設計したものを基に、施工が始まった後でも、施主と現場監督を含め、一緒に定例打ち合わせを通じて、施主の想いを積み上げていく」と話してくれました。

「施主の想いを積み上げていく家づくり」。一体それはどんな家づくりなのでしょう。実際に木村工務店で家づくりをしたKさんに、その意味を探るためにも、話を聞いてみたいと思います。

## 歴史から透ける、 木村工務店

戦前に大工として活躍した創業者・木村精一氏は、当時流行の長家建築に携わり、趣向を凝らした建物で人気を博していたようです。戦後、幸いにも作業場や家屋が戦災を免れ、短工期、低価格で請け負った工場建設を足掛かりに、木村工務店設立に至ります。同社の歴史を振り返ってみると、木造建築、鉄骨造、RC造など様々な工法を用いて、住宅はもちろん学校、神社仏閣、商業施設など多種多様な建物をつくり出して来たことがわかります。

大きく変化した時代の中を乗り越えてきた木村工務店。紆余曲折を経て、現在は、原点とも言える、住宅建設に絞った取り組みを行なっています。



協力業者や大工さんも参加した旅行。彼らに支えられて、木村工務店は成り立っている。

## 木村工務店の歩み

- 1937年 創業者・木村精一が建築請負業の個人営業を開始。木造長家建築や文化住宅を多数施工。
- 1943年 戦時中により爆薬収納箱の軍需指定工場となる。
- 1945年 終戦により建築請負業を再開。
- 1949年 個人営業を組織変更し、「株」木村工務店を設立。代表に木村精一が就任。大阪市の工事を受注し、木造校舎や木造作業場、復興住宅を数多く施工。
- 1952年 大阪市の工事を中心に、RC（鉄筋コンクリート）造の校舎などを多数施工。
- 1958年 専務取締役後任木村正一が就任。民間の鉄骨造、RC造の工場、マンション、住宅などを施工。
- 1960年 官公庁の工事や民間の工場建設、住宅、マンション、店舗などを中心に施工。
- 1969年 営業所の増築拡充工事完成。民間工事に徹し、商業施設、住宅、工場などを施工。
- 1988年 代表取締役社長に木村正一が、取締役会長に木村貴一が就任。民間工事のみを請負。住宅、工場、マンション、神社仏閣まで幅広く手掛ける。
- 1991年 本社新社屋増設改築工事完成。
- 1993年 専務取締役に木村貴一が就任。自然素材の可能性を追求した木造住宅を手がける。官公庁工事の受注を再開する。
- 2003年 注文住宅、リフォーム、建築家との家づくりを中心に活躍。
- 2006年 会長に木村正一が就任。社長に木村貴一が就任。

## Kさんと 「木村工務店」の家づくり

家づくりを考えた時、あまりの窮屈さに絶望感を味わったと言ったKさん。ところが、木村工務店と出会い、選択肢にも入っていなかった工務店との注文建築で家が建てられることに。希望通り進んだ家づくりを「本当に楽しかった」と振り返るKさんに、木村工務店との家づくりについて話していただきました。



## 絶望感から救われた 建てられるという喜び

ハウスメーカーや分譲業者を巡って感じたのは、「これでは自分らしい家を建てるのができない」という絶望感でした。自分たちが見た住宅業界のシステムは「フリープラン」と言っても、ABCという3タイプから選べるというだけで、少しもフリーじゃなかった。建てたい家が、その選択肢の中には無かったんです。万人受けするようないけれど、それをいいと思えない自分たちは、どうやって家を建てればいいんだろう？ そんな思いでいました。

その時は工務店で家を建てることは選択肢にはありませんでした。誰でも工場が大量につくられる、ハウスメーカーの方が安いと思うじゃないですか。だから自分たちには工務店で建てることは無理だと思っていたから、

考えていませんでした。そんな時、妻が雑誌で木村工務店の記事を見つけたんです。当然、予算上、無理だと決めつけていたんですが、「ここだけは行ってみよう」と言う妻の言葉に、当時住んでいたところに近いからという理由もあって行くことにしました。ある意味、自分たちには、自分たちが望む家を建てられないと、あきらめるために行ったところもあります。

でも、それがいい出会いにつながりました。木村工務店が出してくれた具体的な見積もりを見た時、これなら自分たちが望む家を建てられる。という嬉しさが込み上げてきて。工務店に頼むと、1棟ずつオーダーになるから、ものすごく高くなる。という思い込みは間違いだったんです。



## 価値観の合う人達と出会い そこから始まった家づくり

木村社長や設計の田中さんと会って話したとき、「この人たちは気が合う」と直感しました。もちろん家づくりの話もしたんですが、すぐに話題が脱線して、趣味のことなど本当にいろんなことを話しました。信頼できる友達に出会えたような感覚でした。

今まで会ってきた住宅会社の人は「4☆だから安心です」「結露がないです」と、そんな、家を売するための営業トークを一方的に押し付けてくるだけでしたから。でも、木村工務店は違いました。「どんな家に住みたいのか」「どんな暮らしをしたいのか」そんなところから話をしてくれました。懐が深くバイタリティのある社長はもちろん、木村工務店のスタッフみんなのファンになってしまったんです。私たちのこだわりを耳を傾けてくれ、叶えてくれる人達がいます。大袈裟なようですが、家づくりに絶望していた私たちにとっては、大きな感動でした。



## 日々、現場でつくられていく家 参加しているという喜び

家づくりの現場は、すごく楽しかったです。前の家と建築現場が同じ町内だったので、毎朝通勤前に立ち寄っていました。自分自身、ものづくりが大好きなので、気になることを訊くと、わざわざ見せてくれたり、質問をすると答えられない場合はきちんと調べてくれたり、すごく丁寧に対応してくれました。木村工務店で家づくりをして感じたのが、同じ注文建築でも、規格品を売っているのではなく、現場で変化していく、本当のオリジナルをつくっているということ。

現場監督の守田さんには、もう本当に感謝しています。現場に毎日行くからいろいろなアイデアが浮かぶじゃないですか。だからその頃は、何か思い付くとすぐ守田さんに電話していましたね。こうしたいという希望を言うと、例えばもう工事が始まっている場合なら、今ちょっとそれをしているから無理だけど、こうだったらできるよ。といった感じで提案してくれる。こっちは新しい要望を次々と投げかける訳だから、守田さんは大変だったと思います。でも、職人さんを取りまとめ、工程を

管理する中で、可能な限りの最善策で応えてくれたと感じています。自分で家を手作り出来れば一番いいのかもしれないけど、時間的に絶対できない。でも、毎日現場に行くと、スタッフの方と話をしている、そんな希望を叶えてもらいながら、少しずつ完成していく様子を見ると、自分が家をつくっている気分になってくるんですよ。とにかく今思うのは、家づくりは積極的になるべき。注文建築なんだから、注文すべきだと思います。そんなこだわりがある人には絶対工務店で家を建てるべきだと思います。

こんなにこだわらなくても、必要最小限の家だつて充分暮らしているでしょう。でも、タイル一枚、コンセントの位置一つにさえも思いを込めて、こうやって出来た住まいは本当に「可愛い」。何十年たってボロになっても可愛いものは可愛いはずですよ。そんな喜びを私たちに届けてくれた木村工務店に感謝しています。そして、毎日現場を覗いて大工さんと話してから仕事に行くという、あの楽しい日々が終わってしまったのが、少し寂しくもあるんですよ。

## 見積もりができるのが工務店

見積り担当はいわば縁の下の力持ち。入先のこと、職人のこと、そして家づくりのことなど、全てを把握しなければできない仕事です。富樹さんは、木村工務店にとって非常に重要な役割を果たしています。

施主と打ち合わせを数回重ねることで、家づくりというものが盛り上がりつつあります。そうすると必ず金額が気になってきます。そこで必要なのが見積りです。いざ見積りが出たら、予算オーバーしているものも削ることになると、せっかくの家づくりの夢がどんどんしぼんでいきます。そんなことになってしまうと、施主にとっては悲しいことです。だから打ち合わせを重ねる毎に、見積りも、作っていきます。そしてその見積りも、しっかりとしたものを用意します。例えばそれは見積りを読み上げるだけで、2時間近くかかることがあります。なぜ、契約もしていない打ち合わせ段階で、それほど細かい見積りをするのかという、透明性の高い見積りであれば、例えばフローリングにはお金をかけたから、コストをかける。その代わり、住宅設備を少し安いものにするといったように、自由に変更ができるからです。そしてまた、この見積りが仕様の役割を果たすからです。施工現場において、図面の精度が悪くても、仕様書を兼ねる見積りがあれば、どこにどの材をどれくらい使うということがはっきりすれば、施工は非常にスムーズに進みます。見積り担当として、少しでもコストパフォーマンスの高い材料を探して、見積りに反映することで、施主に還元できればと思っています。



見積り  
富樹 泰人  
とみず やすひと



## 人が集まる工務店

木村工務店には、やる気に満ちた若い人が集まっています。「例えば、現場監督の守田さんは富山県出身。普通は、わざわざ大阪にある小さな工務店を、働き先として選ばないと思うんですよ」と設計の田中さんは不思議そうに話してくれました。木村工務店に人が集まってくる理由を知るために、現場監督の守田さんに理由聞いてみると、「手刻みで材を加工できること。つまり木を加工する技術を持っているという点。それから在来工法を中心に、鉄骨造、RC造を扱っている。そして、自社設計と自社施工を行っているから。」ということでした。以前に居た工務店では、扱っているのが在来工法だけだったので、もっと仕事の幅を拡げたいと考えたそうです。

木村工務店には、家づくりにこだわりを持つ人が、あるいは、もった経験を積みたいて考えている人が、たくさん集まってくるみたいですよ。きっとその理由は、木村工務店にそんな人を惹きつける包容力があるからでしょう。



設計  
田中 耕治  
たなか こうじ

# 家づくりの全てを握る 「現場監督」という存在



## 現場監督が家をつくる

木村工務店の家づくりは、現場で柔軟に対応できる、家づくりだと言えます。プレハブメーカーとは違い、すべてがオリジナルの家づくりは、着工してからどんな密度が濃くなっていくか、どんなに煮詰めたプランでも、実際に工事が進む中で、「やっぱりこうしたい」といった施主の要望が出てくるのは当然です。そんな現場中心の家づくりにおいて、重要な役割を握るのが、現場監督。仕上がりへの良し悪しも、工期内に竣工できるかも、工事中の施主の要望をどう受け入れ、収めていくかも、全て現場監督の采配にかかっているのです。特に、基本仕様などの「型」が一切ない木村工務店においては、工事の全てが現場監督に委ねられ、竣工までの全責任を現場監督が引き受けます。工務店の家づくりにおいて、「現場監督が家を建てる」と言っても過言ではありません。



## 全てを担う責任感

一般的に、ある程度の収益性を考えるため、仕様や取まりの統一といったものが工務店にはありますが、木村工務店の場合には、その都度柔軟に対応していくという伝統があります。つまり、全てが現場監督に任されているのです。現場監督は、それぞれの持つやり方で、想いを込めて家づくりを進めていくことができます。そんなところが、木村工務店の魅力だと守田さんは言います。木村工務店では、入念に行なう施主との定例打ち合わせに、現場監督ももちろん参加。施主とのコミュニケーションを重ねた上で工事を着工します。施主の新たな希望を反映したり、プロの目からのアイデアを取り入れたりと、図面には表されていない仕事が現場で加えられていきます。「現場で急な要望がある場合には、その時に出来る最善策を考えてご提案しています」と守田さん。施主と毎日接し、会話をすることで、自分たちの家づくりに満足してもらえているかどうかは、すぐに分かるそうです。「いい家を建てたいというのは施主も現場監督も同じ。だからこそ、私たちが信頼していただきたいと思っています。信じて任せていただいた気持ちに、現場監督と職人が心を込めてお応えします。」



こんな家を建てたいという想いに対し、工務店はそれを叶えるためにあらゆる努力をします。「何度も打ち合わせを重ね、そのたびにプランが練り直され、それに合わせて見積書も書き換えられます。そんな膨大な作業を通して、やがて、施主の想いがより深く映し出されたプランができあがります。そして、実際に家を建てる現場もまた、その想いを叶えるために、最善を尽くします。以前、木村工務店の木村社長は、工務店の家づくりについて、「施主とコミュニ

ケーションをしていくことで、100点の家をつくる」と話していました。施主の想いを満たしたプランでも、現場では色々な要望が出てきます。現場監督はそれに応えることで、施主の想いを形にしていきます。施主の持つ想いに応えるために取り組む、工務店の家づくり。それは、施主への想いが向き合うことでつくられます。そんな工務店の家づくりこそ「顔の見える家づくり」です。



株式会社 木村工務店

代表取締役

**木村貴一** (きむら たかいち)

1959年 大阪市に生まれ、1983年 関西大学建築学科卒業  
1983年 株式会社木村工務店入社、1993年 同専務取締役に就任  
2006年 同代表取締役に就任  
2002年 ビフォーアフター「足に負担がかかる家」で出演。  
2002年 ビフォーアフター「220歳の家」で出演。  
他、2005年にもビフォーアフターに出演するなど、家づくりの匠みとして紹介されている。



株式会社 木村工務店

<http://www.kimuko.net>

〒544-0003 大阪市生野区小路東 2-20-25 Tel.06-6751-4414 Fax.06-6751-4450  
E-mail. [toiawase@kimuko.net](mailto:toiawase@kimuko.net)

## 現場監督の仕事とは

現場監督の仕事は、まず現場の安全を確保すること。そして、施工する建物の品質を管理することです。他にも、施工図面の制作や予算の管理など多岐に及びます。木村工務店で現場監督を勤める守田さんが、現場監督の大まかな3つの役割について教えてくださいました。



現場監督  
**守田 拓生**  
もりた たくお

### ●品質を守るための人の管理

職人の手配、職人の仕事の割り振り、現場での指揮 など  
：職人を自ら選び、職人への依頼の電話も守田さんが直接かけます。それぞれの力量を把握して、当日の持ち場を決定。

### ●品質を守るための時間の管理

工期を守る事、天候の影響やトラブルが発生した場合のスケジュール調整 など。  
：完成を楽しみに待つ施主のため、期日を守ることも大切ですが、品質を高めるためなら、期日の延期を施主に求めることがあります。

### ●品質を守るためのお金の管理

予算の管理、職人などへの品質を確保するための予算の割り振り など